FAQ of *First Class Coat*

～ 「ファーストクラスコート」のよくある質問と答え ～

■商品の特徴について
Q1. 他社のガラス系コーティングとどこが違うのですか?
Q2. 「ファーストクラスコート」は撥水性ですか、それとも親水性ですか?
Q3. 撥水性コーティングの注意点を教えてください。
■施工について
Q4. 施工する前にしておいた方がよいことはありますか?
Q5. 自動車へ施工する場合、塗装面以外にも施工することができますか?
Q6. 自動車へ施工する場合、1台にどのくらい使用するのが適量ですか?
■施工後の手入れ(メンテナンス)について
Q7. 施工直後の注意点はありますか?
Q8. 日頃の手入れはどのようにしたらよいのですか?
Q9. 雨ジミがついた場合はどうすればよいですか?
■その他
Q10. コーティングの保証はしてもらえるのですか?
Q11. コーティング剤は購入してからどのくらいの期間使えますか? また、液剤の保管方法について注意することはありますか?

■商品の特徴について

Q1. 他社のガラス系コーティングとどこが違うのですか?

A1. 「ファーストクラスコート」は有機樹脂及び揮発性有機化合物(VOC)を使用せず、オルガノポリシロキサンを主剤とした無溶剤･無機質塗料から開発されています。 **従来の有機結合よりも強い無機結合により、緻密で強靭な不活性の被膜を形成します。 そのため、耐熱性で紫外線、光エネルギー波長での材質変化は起こりにくく、耐酸性がある高い耐久性を実現します。**

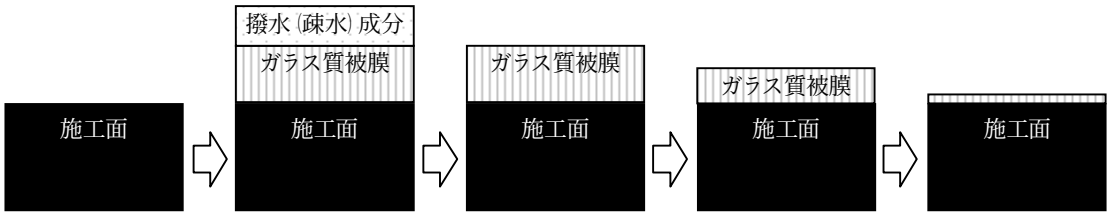
ガラス系コーティングは、濃色車の施工でムラになる、複数の液剤が必要になる、専用の機器が必要になる、初期導入にお金がかかる等のイメージがありました。 これらの問題を解決し、**高品質でありながらも価格を抑え、特殊な機器を必要とせず、かつ簡単な施工方法を実現し、施工店様、お客様にご提供することを可能としたのが「ファーストクラスコート」です。** その証に、陸、海、空のあらゆる分野で使用されつつあります。

また、VOCフリーのため、室内での作業も安全に行え、施工面に対しても安全です。 ですから、自動車ボディだけでなく、室内で使用するものにも施工することができます。

Q2.「ファーストクラスコート」は撥水性ですか、それとも親水性ですか?

A2.「ファーストクラスコート」はユーザーニーズの高さから**初期は撥水し、撥水効果は約半年間(※)持続します。** その後、撥水効果が無くなっても**ガラス質の保護被膜は施工後から約２年間(※)持続します。** その間は、ガラスと同じような水の切れ方になりますが、施工面を保護する効果は継続し、重厚感のある光沢も持続します。

※洗車、保管、走行条件等により持続期間は変わります。



Q3. 撥水性コーティングの注意点を教えてください。

A3. どのタイプのコーティングにも長所と短所があります。 よくご理解された上でお客様のご要望に合ったコーティングやメンテナンスをお勧めください。

一般的に水が掛った時、**水滴が球状になるのが撥水（疎水）タイプ**、**ベターと水の膜を張るのが親水タイプ**です。 この２つのタイプの長所と短所はほぼ逆の関係になります。

撥水タイプの優れている点は、何といっても**濡れた時の水玉の視覚効果が高い点、砂埃などが水洗いで簡単に洗い流せる点、拭き上げがしやすい点**です。

逆に撥水タイプの劣っている点は、濡れた時に水玉になることから、**雨ジミ（イオンデポジット）がつきやすくなる点**です。 雨ジミは頑固なものになると取れにくくなりますので、まずは濡れたら長時間放っておかず、水分を拭き上げることにより予防してあげることが第一です。 これは、従来から身近にあるワックスやガソリンスタンドなどで行っている撥水洗車後の注意事項と同じです。

雨ジミについては、施工後の手入れのＦＡＱもご覧ください。

■施工について

Q4. 施工する前にしておいた方がよいことはありますか?

A4. **「ファーストクラスコート」には水アカ等の汚れを落とす成分やコンパウンド類は入っておりません。**

施工面が汚れている状態でコーティングしますと汚れを包み込んでしまい、後からその汚れを落すのが大変になります。 また、汚れた状態ではコーティングの密着性など性能が十分に発揮できなくなりますので、**ボディの状態により、予め鉄粉取りや水アカ落し、コンパウンドなどで施工面を整えてから使用してください。** 市販ケミカルとの相性は特に問いませんので、従来ご使用になられているケミカルのご使用も可能ですが、**特にスパークルG-1輝、イーグルスター アイアンダスト、マーベラスホワイト／カラー、石原薬品各種コンパウンドが推奨品となります。**

Q5. 自動車へ施工する場合、塗装面以外にも施工することができますか?

A5. **ガラス及びゴム以外の部分は可能**です（バンパーや樹脂パネル部も可能）。ゴムに向かないのは材質が伸び縮みするため硬質なコーティングは定着しないためです。 また、ガラスにガラス質のコーティングする必要はないため、一般的にはガラスとゴム以外の部分が施工対象になります。
また、通常は少量の水を霧吹きで掛けながら施工（ウェット工法）しますが、膜圧を高めた方が良い部分、例えばホイールやヘッドライト、テールライトなどは乾燥した状態で塗り込んで拭き上げる施工（ドライ工法）が適しています。 ドライ工法の場合は、ウェット工法の約倍の反応時間（放置時間）を取ってください。 **ホイールに施工した場合、使用状況、走行距離等により異なりますが、約6ヶ月程度被膜を保持します。**

Q6. 自動車へ施工する場合、1台にどのくらい使用するのが適量ですか?

A6. 普通乗用車で約6～7g、大型ワンボックス車で8～9gです。 始めはスポンジにしみ込む分、多めに使用しますが、その後は水の弾き具合を見ながら塗布していくと効率よく施工することができます。 ベテランの方は、10gで普通乗用車2台施工されています。

■施工後の手入れ（メンテナンス）について

Q7. 施工直後の注意点はありますか?

A7. 施工後、24時間は水を掛けないでください。 万が一、雨などで濡れた場合は、雨の当たらない場所に移動し、水洗いで泥などを落した後、柔らかいクロス等で水分を拭き取ってください。
施工面が十分に強度のあるガラス質被膜を形成するためには1～2週間程度かかります。 施工後、1～2 週間はできるだけ洗車を控えてください。 雨天走行後は、なるべく早く汚れを洗い流し、乾拭きを行ってください。

Q8. 日頃の手入れはどのようにしたらよいのですか?

A8. **普段は汚れたら水洗いまたは中性タイプのシャンプー洗車をすれば十分です。** コーティングにダメージを与えずに汚れを落とすには、**「ファシルイオンクリーナー」**のご使用を推奨します。
撥水状態をお好みの方は、**石原薬品 「撥水シャンプー153」**、市販の撥水カーシャンプー、ガソリンスタンド等で行っている撥水洗車をしていただいて結構です。 また、市販の固形ワックスを使用していただいても結構ですが、いずれにしても、**コンパウンド類が入っていないものをお使いください。 コンパウンドを使用するとコーティングの持続期間が短くなります。**

Q9. 雨ジミがついた場合はどうすればよいですか?

A9. 雨ジミは、洗車後や雨の後に水分が乾燥し、塗装表面に固着した水だけでは落ちない汚れ跡の総称でイオンデポジットとも呼ばれます。
雨ジミがついたら、「スパークル G-1 輝」、もしくは市販の雨ジミクリーナーを使用してお取りください。

まずは、雨ジミが固着しないように、洗車後や雨の後は水滴を塗装面に残さないように拭き上げて予防することをお勧めします。

■その他

Q10. コーティングの保証はしてもらえるのですか?

A10. **「ファーストクラスコート」には保証期間を設けておりません。** それは個々のお客様の異なる洗車･保管･走行条件等の使用条件で、統一した保証期間を設けることは現実的に困難だからです。

高額コーティングでは定期的なメンテナンスと称して再施工しているケースもあるようですが、**「ファーストクラスコート」は低価格でお客様にご提供していただき、期待以上の効果をお客様に体感していただきたいと思っております。 約 2 年後のリピート（再施工　車検時の施工メニュー）を想定した製品です。**

Q11. コーティング剤は購入してからどのくらいの期間使えますか？ また、液剤の保管方法について注意することはありますか?

A11. 保管方法にしたがって正しく保管していただいた場合には、**1 年間**は使用することができます。

保管方法は、まずはしっかりと密栓してください。 空気中の水分と反応して硬化していきますので、密栓が不完全ですと容器の中で硬化してしまいます。 高温、低温、多湿を避け、5℃から 40℃の室温で保管してください。

詳しくは 1 台分施工セットの取扱説明書をご覧ください。

以上